文書分類番号	00	09	03	002	永年	起案	平成	年	月	日	決裁	平成	年	月	日
議長	副議長	局長	副主幹	係長	主査	担当							文書取扱主任		

第 2 回 第 2 分科会 会議録

開催年月日	平成28年6月3日(金曜日)	開会15時54分	閉会16時26分
開催場所	第一委員会室		
出席分科員	山本、柴田、安樂、堀		事務局 竹谷事務局長 菊田副主幹 平川係長
欠席分科員			
説明員	なし	議件	別紙のとおり
議 事 の 概 要	1 今後の進め方について		
	資料に基づき分科員間で協議をし、①については継続協議とし、②、③、④については、協議を終結することとした。		
	2 その他		
	なし		
	3 次回分科会の日程について		
	正副座長に一任することに決定した。		
上記記載のとおり相違ない。 議会改革特別委員長 清水雅人 ㊦			

第2回 第2分科会

日 時 平成28年6月3日(金)
午後4時00分
場 所 第一委員会室

○ 開 会

○ 座長挨拶(分科会員動静)

1 今後の進め方について

2 その他

3 次回分科会の日程について

○ 閉 会

議会改革特別委員会第2回第2分科会

H28.6.3(金)16:00～

第一委員会室

開 会 15:54

座長挨拶

座 長

ただいまから第2回第2分科会を開会します。
今回で2回目の分科会ということでありますけれども、先般正副委員長で今までの経過を踏まえてこれからの進め方を打ち合わせをさせていただいた中で、そろそろ継続的に審査する部分とここでもう結論が出る部分に分けてこれから進めたらいいのではないかとといった意味できょうの分科会で今まで出されました課題について若干整理をさせていただいて、今後取り組むもの、取り組まないものについて整理させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

分科員動静報告

座 長

分科員動静でございますが、全員出席しています。

1 今後の進め方について

座 長

まず初めに、今後の進め方でございますけれども、資料の調査事項についての①本会議主義と委員会主義、②議員、事務局職員の調査・研究能力向上について、③常任委員会や特別委員会の政策提案、④議員の各常任委員会への複数所属等について、これらについて前回いろいろご意見があったところでありますけれども、先般委員長とお話をさせていただいた中では、②、③、④については、ほぼ今の滝川市議会の取り組みの中で現状でいいのではないかとというような考え方でありますけれども、その部分についてもきょう皆さんからご意見をいただきながら、方向性を出していただきたいと思ひています。ここで継続審議ということになっている部分では、今後それを全くやめるということではなく、重点項目から外していくということになるかと思ひます。

それと、問題は、①の本会議主義と委員会主義についてですが、当市議会は本会議主義ということで、各常任委員会については、報告事項の中でもこれとこれは議案関連でありますので、ご留意願ひますということで報告のみ、そしていざ本会議になったときに、その議案に対してもっと論議を深めるのかということ、どうもそんなことではないので、その辺のことについて何かいい方法はないのかと。委員会主義と本会議主義を踏まえた中で、その辺をもう少し掘り下げた全道、全国のいい事例がないのかということで、継続的に調査をしていったほうがいいのではないかなというのが委員長と副委員長としての方向性であります。それを踏まえてきょう分科員の皆さん方に今後の進め方についてお諮りをさせていただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

副 座 長

本会議主義、委員会主義の関係については、議員の各常任委員会の複数所属というのが前提になると思ひます。そうでなければ各党派がその質疑に参加できないということになってくると、前もこの分科会でお話ししたのですけれども、委員会の定数をふやすという作業がどうしても必要になってくるのではないのかと。委員外議員があるからいいのではないかとということですが、そもそも委員外議員の制度自体は委員会主義にはなじまないですから、当然複数所属ということになってくると現状の3常任委員会において3人以上の党派構成のところしか各委員会での意見反映が行えない。そういうことからすると

④と①というのは密接不可分な関係にあるのです。ですから、私は以前ここでも申し上げましたけれども、委員会主義は18名という現状の議員定数の中では相当無理があるということをお話をさせていただいたのですが、私は現状の本会議主義をどういうふうな方向性を持って、より積極的な運営が可能なのかといったところを議論し、調査を行っていくということが重要なのではないかなと思っています。先ほど座長からお話のあった例えば条例や予算の議案の内容の精査について委員会で行ってはいけないといったところをどこまで踏み込めるのかという可能性について、さまざまな事例を用いて研究していくことでまとめるしかないと思います。複数所属というのは、少数会派には非常によい制度ですけれども、多数会派にとっては非常に不公平な制度だということでもありますので、私は本会議主義をどこまで煮詰めていけるかということは今後検討していくべきで、ちょっと委員会主義を導入するというについては無理があると申し上げておきたいと思っています。

座長 正副委員長においては、本会議主義から委員会主義にという方向ではなくて、今の本会議主義の中で議案審査にわたらないという、最大限どの辺ぐらいまでいけるのかなということ調査したいなというような気はするのですけれども、そんなことを踏まえて、堀委員、どうですか。

堀 今座長が言われたように、要するに委員会で議案関連に関しての質疑事項をもっと幅広く研究したほうが良いと思っています。ほとんどさわらないで委員会が流れていますので、その辺を意見なり、質疑なりもっと幅広く受け入れてもらって、そこで充実してもらって、会派なりに持ち寄って本会議に臨むというのが理想ではないかなと思っています。

副座長 もうそろそろ方向性を見出したほうが良いと思っています。委員会において質疑を行うことはできるわけですから、これはやるべきだと思うのです。ただ、委員会に所属していない議員については質疑できないわけです。ですから、委員会に所属していない議員の質疑については、これは本会議で許すとか、委員会に所属している議員は本会議での質疑は行わないとか、そういうことでもしない限りは非常に不公平感が残ってしまう。委員会で質疑をやってしまうと、委員会に所属している議員だけが豊富な質疑を行うことができ、所属していないところは全く質疑できない。本会議ではできるけれども、質疑の回数は限られてしまうということになってしまうので、そこのところを今私はこうしたいという妙案は持っていないのですけれども、調査をしていただいて、そういったような、あるいはそれに類するような議会運営の仕方をしている自治体、議会を探していただいて、提示していただければありがたいと思います。それで、僕が今言ったのは、実は委員会主義でも何でもないので。委員会主義というのは、委員会で採決まで持って行って、本会議に委員長報告で終わるという形が本来の委員会主義なので、今私が申し上げたのはあくまでも本会議主義だと。本会議で質疑、討論、採決を行うということは、それはベースとしてできると思うのです。討論は本会議でやれということであれば、各会派が討論できますので、あとは委員会でより充実した質疑をどこまで保障するかというところを他の自治体も含めて調査をしていただいて、提案していただくと。そこから検討していかないとだめなのかなと思っています。

安楽 本会議主義のさらなる進化というか、ただ、委員会で議案審査にかかわるものは控えてくれという話なのだけれども、議案審査というのがどこまでが議案審

査かというのが難しいところだと思うのです。そこら辺を、今柴田分科員も言いましたけれども、いろんなところを調査しながら確認をしておさめどころを決めないと、これはいつまでたってもはっきりしないことになってしまうので、明らかに委員会主義というのは滝川にはなじまないなというのはわかっているので、あとは委員会でもどこまでできるかというところですね。本会議で質疑して、そこで討論してというのは当たり前で、今までどおりでいいのですけれども、踏み込むところがどこまでかというところ、そこをちゃんといろいろこれから勉強してやっていったほうがいいのではないかと思います。

座長

今、本市議会では、予算、決算が委員会付託ということで中身まで踏み込めるのですけれども、実際はどうも普通の一般案件ではこの前の下水道問題のときの付託ぐらいで、なかなかないわけなのです。そんな中で、柴田分科員と安樂分科員が言われたように、本会議主義の中なのだけれども、議案審査にわたらないという部分がどこまで委員会の中で踏み込めるのか、他の優良事例を少し調査すべきが今回我々の分科会の中では検討事項で残ったのかなという結論になるのですけれども、全道、全国の事例がいっぱいあろうかと思うのですけれども、その辺はもう少し調査をしていくという形だと思いますが、その辺の整理を今後していくことでどうですか。

副座長

もう一点あるのは、実は委員会で質疑をある程度行うということになってくると、出席者の中に副市長の出席を求めることが多分かなり多くなる。ほとんど出てこなければいけない状況にもなるのです。そうすると、市長部局がこの本会議主義の変更について何らかのお考えを持っているのかというところを我々分科会としてそういったことの事情を聞く、どこまでやるかというところを決めてからなのですけれども、そういう意見聴取も必要なのかなと。ただ、それが我々の本会議主義の実利を損なうところまでの話であれば、それは議会として判断しなければいけないから、それでもやりましょうと判断するのか、そこまではできないということになるのかというのは、これは分科会ではなくて委員会に持ち帰って、そこで判断していただくと。ただ、形が出てから、理事者側の意見については分科会でお聞きをします。そんなことも必要なのかなと思います。やり方を変えるというのは、実際そういうことなので、そこら辺はきちんと考えておかないとだめかと思います。

座長

実際、予算、決算審査特別委員会のときに某議員が通告を出して質疑、議案審査に当たっているのですけれども、一般の常任委員会については事前に、議案の中身の質疑事項の通告はできない仕組みになっているのです。そんなことも含めて、結果的に常任委員会で提出されたものを本会議までに質疑とか意見とかを考えて、いろんな方向を決めていくことになるので、委員長ともお話ししていて、なかなか論議が本会議主義で不完全燃焼になっている部分がうちの議会にはないのか、そんなことにならなければいいという中で委員会で、どの辺ぐらいまでいけるのか、それで全国の事例をもう少しという話だったのですが、大勢的にはそのような雰囲気なのだと思いますけれども、違うのですか。

副座長

不完全燃焼だとか、例えば委員会をうまく使って中身を調査しよう、中身を知ろうという方はいると思います。委員会でも質疑をたくさん行う方もいらっしゃる。特に質疑を行わない方もいらっしゃる。ただ、ここで我々が間違っていないのは、議員活動というのは委員会だけで行われるわけではなくて、日々実は議員活動なのです。それぞれの議員個々の実情に応じて議員活動をなさっ

ているのかもしれないのですけれども、事前に勉強を行うことはできるわけです。議案の中身についても、あるいは総務文教常任委員会なり、あるいは厚生常任委員会に提案される内容についても議員活動の中で事前に把握を行うことは可能なのです。ですから、とりあえず本会議主義と委員会主義がうまくミックスされて、新たな本会議主義ができ上がったからよかったのだという話ではとてもないと思うのです。その前提としては、ここにあるように議員と事務局職員の調査研究能力の向上だとか、こういったことがすべからく行われて初めてさらにその上にこういったシステムを変えることによってより深みのある議論を行うということであればわかるのですけれども、どうも委員長、副委員長のお話の中で僕が聞こえてしまうのは、要するにここで、この時間帯を使って質疑応答をしても、いま一つ明確にならないと、不完全であると、不完全燃焼で終わってしまうと。でも、この前にその不完全燃焼という現象を取り扱う作業をやっていれば、この委員会で十分納得できる議論はできるはずなのです。その準備を怠っている人間は、ここでそのおくれを取り返そうとするという事実もしっかり持っておかないと、何か委員会に出ればそれで事が足りるような、そういう議員活動であってはならないということは、僕はこの調査事項の最後のところに太字で明確に書いてほしいぐらいに思っているのです。その前提に立って、より本会議主義を進化させていこうという試みだったらいいのです。現状そのままにしておいて、もっと質疑時間をふやせとわがまま言っているように聞こえるような議会改革であってははいけません。だから、さっき僕は理事者側の意見を事前に聞いておかないと、議員側の一方的な子供じみた議論を理事者側に吹っかけるということになってしまうので、そういったことを私は今回のこの分科会の一つの重要なテーマとして押さえた上で、その本会議主義について結論を出していきたいと思っています。

座 長

当然市の運営というのは議会と市の理事者側とで回っているということでありますので、理事者側の意向も踏まえた中で結論を出していかなければならない、これは当然だと思うのですけれども、そのような方向で、どこかで市の理事者側と、もしこうなったらどうだということでも一回お話をさせていただきたいと思います。第2分科会として意見交換会の時間をとらせていただきたい。極端なことを言うと、もし完全に委員会主義になったときには本会議から付託になってしまうから、先に例えば議案書をもらって付託になるので、中間は本会議でなくて委員会が延々とあるということです。そして、最終日に委員長報告のとおりよろしいですかで終わってしまう。あとは賛成か反対の討論しかないということになる。

副座長
座 長

だから、委員会に出ていない人はわからない。
そうすると、例えば2人会派の場合には、全体の委員会を2つにすればいい、1人になったときに両方、両方ということには副座長の言うとおりに不公平にならない。やっぱりその辺のことを踏まえた中で、本会議主義のいい部分を残しながら、どこまで可能かということの調査、そして理事者側とのやりとりの中で、実際問題として質疑をするということなのですけれども、資料をもらえば実際に所管と委員会の前にできるのですが、できないということはその議員に何か問題があるような気がする。それを含めて委員会だけが調査部分ではないので、日ごろの活動の中で例えば所管に説明をしてくれと言ったら幾らでもしてくれるので、それができているのかという部分も少しあるのかなというような気も

するのです。

副座長

今座長がおっしゃったとおりなのです。例えばきょう午前中に総務文教常任委員会がありました。ふるさと納税の説明がありました。いろんな議論がなされました。でも、その前にふるさと納税の関係についてきちんと調査をして、いろんな切り口の中で議論を行う中で、別に質疑しなくても理解ができてしまっているということも実はあるのです。それなのに、わからないがための、自分が知り得るために長時間を使ってどんどん質疑して、それでもちょっと胃の調子が悪くてうまくこなれなかったという話にだけは私はこの議会改革がなっはいけないのだと。きちんと準備した委員もいるのだという前提でやっていかないと、これはやっぱりだめなのだろうなと思います。

他の会派の人をどうの言うつもりもないのですが、例えば社会教育施設の問題一つとっても本間議員は、総務文教常任委員会の前に社会教育課に行って、どういう問題があるのかということとを事前にきちんと勉強して、委員会に臨んでいるのです。ですから、そういう人たちとどんな中身になっているのかわからないと行ってここに来て、これ何なのかと言って、そして時間をとって、それでここまでしか質疑できないのだったらわからないと言っているのは、これは絶対に許してはいけないと私は思っているのです、本当にその履き違いだけは肝に銘じていただかないと、私はこの議会改革特別委員会の本来の姿は失われてしまうのだらうと思っています。

座長

副座長が言われたその辺の質問、それと質疑、いろんな部分の線引きを含めて、先ほど言いました理事者側とのまず考え方、それと優良事例の調査と、その辺に絞られてくるかなと思いますけれども、そんな方向でよろしいですか。

(異議なしの声あり)

座長

それでは、理事者側との議会のやり方をもし変えたときについて、副市長と総務部長ぐらいに話をどこかでさせていただくと。それと並行して、ほかの議会でうまくやっている事例はないのか調査をするという方向でよろしいですか。

(異議なしの声あり)

座長

きょうの部分についてはその程度で取りまとめをさせていただきたいと思いません。

先ほど副座長が言われました調査研究能力だとか複数所属の部分については、調査研究は当然しなければならないけれども、複数所属についてはやはり当市議会でなじまないのは、はっきりしているなと思いますので、この部分については除外していく方向でいいと思います。それで、何度も言いますが、本会議主義、委員会主義について、さらなる調査をするということできょう結論をさせていただきたいと思いません。

2 その他

座長

分科員から何かありますか。

(なしの声あり)

座長

④終了で、②、③は①に関連する。政策提案については、委員会主義ならできるのだけれども、本会議主義でやっているところがあるのかどうか。それと、この②については、調査研究能力向上については、これは当然のことなので、これを外してもいいのかなという気がするのだけれども。だから、③の政策提案については、ほかの本会議主義、委員会主義のところでのどの程度政策提案をやっているのかということもあると思うのです。だから、例えばうちの議会で

なじみやすい政策提案はどこなのか、本会議なのか、委員会なのか含めてもう少し要るのかというような気がするのですけれども。いずれにしても、今までも政策提案はできているので、だからいいのかなという気はするのですが、ただ残したほうがいいのかという気もします。①は確実に継続審査ということで、あとは重点項目から外すということでいいですか。

(異議なしの声あり)

3 次回分科会の日程について

座 長 次回、市の理事者側を含めてということについては、事務局と座長の私にお任せをいただけますか。

(異議なしの声あり)

座 長 以上で第2回2分科会を閉会いたします。

閉 会 16:26